

オーケストラ プリモ 第7回演奏会

I Orchestra

ブラームス 交響曲第2番 二長調 作品73

Johannes BRAHMS: Symphonie Nr.2 D-dur, Op.73 (1877)

J.C.バッハ 協奏交響曲 ハ長調 W.C43

Johann Christian BACH:

Sinfonia Concertante for Flute, Oboe, Violin, Violoncello C major W.C43 (1778)

スクリャービン: 夢想 作品24

Alexandre SCRIBIN: Rêverie op.24 (1898)



音楽監督・指揮 永峰 大輔

Conductor: Daisuke NAGAMINE (Musical Director)

2016年10月15日(土) 開場 14:00 開演 14:30
阿倍野区民センター・大ホール

大阪市営地下鉄谷町線「阿倍野駅」6号出口より徒歩2分

入場料 ¥1,000 **e+ イープラス** (<http://eplus.jp>) にて発売中! → → →

※未就学児の入場はご遠慮ください。



☆主催: オーケストラ プリモ

◇お問い合わせは「オーケストラ プリモ事務局」まで…E-mail→info@orchestra1.com Tel→050-7125-2064

◇最新の活動情報や団員募集状況などは、こちらのウェブサイトまで→<http://www.orchestra1.com>

☆Please check out our Facebook and Twitter!

Orchestra I

@OrchestraI

オーケストラ プリモ 第7回演奏会

オーケストラ プリモ

Orchestra I 音楽監督・指揮者 永峰 大輔

1977年千葉県生まれ。洗足学園音楽大学附属指揮研究所を経て、フランス・リスト音楽院、メクレンブルク・フォアポマーン州立歌劇場にて研鑽を積む。2008年にはエレアザール・デ・カルヴァーリョ音楽祭に客演指揮者として招聘され、日伯移民100周年を記念する演奏会を指揮し絶賛を受けた。

これまでに、名古屋フィルハーモニー交響楽団、仙台フィルハーモニー管弦楽団、日本フィルハーモニー交響楽団、群馬交響楽団、山形交響楽団、新日本フィルハーモニー交響楽団、兵庫芸術文化センター管弦楽団、大阪交響楽団などへ客演。2012年から2015年までは、神奈川フィルハーモニー管弦楽団副指揮者として、主催公演を含む年間20公演以上を指揮。2015年/16年シーズンには、NHK交響楽団にて首席指揮者パーヴォ・ヤルヴィのアシスタントを務めるなど、着実に実績を積んでいる。

2011年にウクライナ、チェルニーヒフフィルハーモニー主催の指揮マスタークラスにて、最優秀指揮者賞である「ニコライ・パセーリビッチ賞」を受賞。2014年にはアメリカ、アトランタで開催された第5回ICW国際指揮コンクールにて最優秀指揮者に選出された。

★公式サイト→<http://www.nagamines.com>



Photo by YAMAMOTO Yuuki

オーケストラ プリモは2011年、音楽監督・永峰大輔の呼びかけにより彼と共演した関西アマチュアオケおよび学生オケメンバーを中心に発足。2012年2月の第1回演奏会以後、古典音楽を軸に普段なかなかプログラムにのることがない曲にもスポットを当てる意欲的な選曲、合唱団との共演による「第九」演奏会、公開リハーサルやレクチャーなど、様々な形でほぼ半年に1度のペースで活動を進めてきた。第5回演奏会のあと約2年間の小休止をはさみ、本年4月には神奈川フィルハーモニー管弦楽団ソロ・コンサートマスターの石田泰尚氏をソリストに迎えたベートーヴェン・プログラムで再始動した。

次回第7回は再始動後2回目となる演奏会。前回のソロ×オーケストラという色合いの強い「協奏曲」に対し、オーケストラの各首席奏者がとこところでソロパートを受け持つ「協奏交響曲」を取り上げる。コンサートマスターを中心にオーケストラの音作りに取り組み、オーケストラ・首席奏者・指揮者が一丸となってアンサンブルをする…プリモにとって非常に大切で欠かせない要素を体現する曲であることは間違いない。

メインにはブラームスが風光明媚な湖畔で一気に書き上げた名曲を。世間一般的にはそのステレオタイプな演奏イメージから「田園」と喩えられることもあるが、そう一筋縄ではいかないのが永峰&プリモ。ドイツ民俗音楽としての側面や、古来からの音楽との関連性にも目を配りながら、鮮烈な解釈でお届けできるはず。

そして一見あまり関連性がなさそうな、ロシアでラフマニノフの好敵手として活躍したスクリャービンの習作的な小品での幕開け。タイトルの通りどこか掴みどころのないような雰囲気漂うが、そのハーモニーの移ろいこそが、ブラームスの緩徐楽章とのつながりや、あるいはシェーンベルクに代表される新ウィーン楽派の響きを彷彿とさせる。

これまでも増して彩り豊かなプログラム、乞うご期待！

IOrchestra